

第1学年道徳学習指導案

日 時 平成22年11月2日(火) 5校時
場 所 1年教室
児童数 5名
指導者 似内 麻衣子

1 主題名 何度も粘り強く 1－(2) 勤勉努力

2 資料名 こぐまの らっぱ (東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目1－(2)は、「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う」ことを指導内容としている。

自分で行うべきであると決めたことを、最後まで粘り強く努力して行うことは、児童が自立していくうえで大切な資質である。現実には困難や苦労に直面してくじけそうになることが多いが、努力を続けて目標を達成したときの喜びは大きい。自分を向上させようと絶えず努力する姿勢が尊いことを自覚させ、目標に向かって努力しようとする意欲を高めたい。

(2) 資料について

本資料は、演奏会に向けらっぱの練習に取り組むこぐまが主人公である。他の楽団員が上手に演奏するなか、こぐまはよい音が出せずやめようかと考える。しかし、小鳥たちの会話からヒントを得て一人で練習を重ねる。その結果演奏会ではとてもいい演奏ができ、楽団員から褒められお客さんから拍手をもらい、満足感でいっぱいになる。

音楽隊の一員としての役割を自覚し、お客さんのことを思い練習に励むこぐまの姿を通して、途中で投げ出してしまわずやり遂げることの大切さを十分にとらえられるようにしたい。

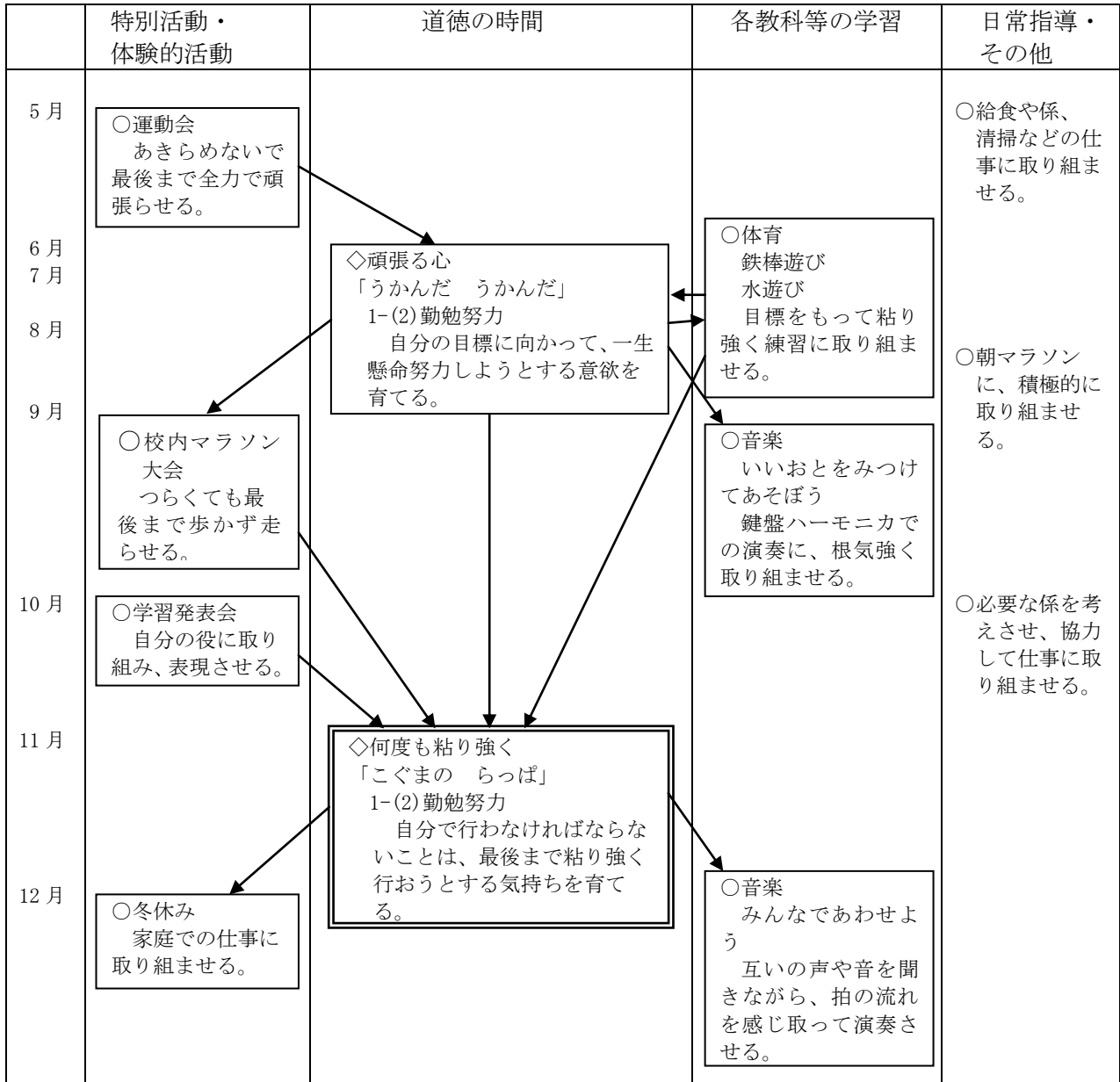
(3) 児童について

1年生の児童は、係や当番の仕事をすすんで行っている。学習や運動でもがんばる姿が見られるが、苦手なことは避けることもある。

少人数で保育園も同じだったことから、お互いをよく理解しており衝突することがほとんどなく、注意し合うとすぐ聞き入れる。素直な児童が多いが、おとなしく反応が少ないことがある。

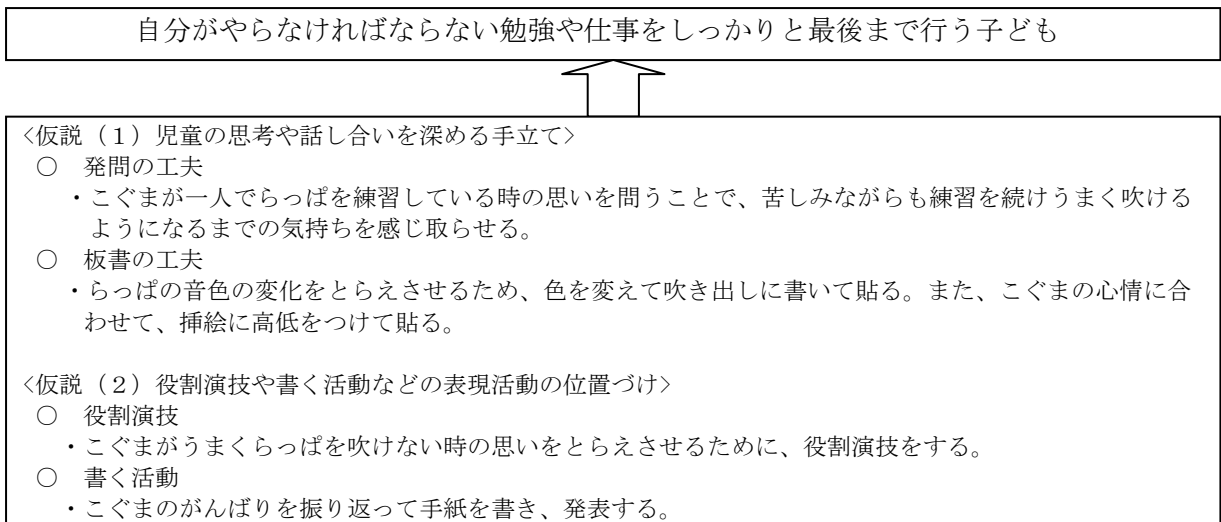
意識調査によると、「主として自分自身に関すること」が他よりも意識が低かった。学校生活に慣れ、日々の学習や係、当番の仕事などを通して、自分で行わなければならない事柄があることに気づき始めているこの時期に、自分で行うべきことを最後まで粘り強く行おうとする気持ちを育てたい。

4 本時を「要」として位置づけた指導構想図



5 研究テーマに関わって

「たくましい」



場面	音楽隊で練習をするが、こぐまはらっぱをうまく吹くことができない。	こぐまは小鳥たちの会話を聞く。	こぐまは練習を始め、だんだんいい音が出るようになる。	演奏会の日、こぐまはらっぱを上手に吹くことができた。
主人公の行為ととりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> 山の音楽隊の演奏会が近い。 たぬきやこりすは、楽器を上手に演奏している。 こぐまはいい音が出せず、周りから励まされる。 練習は夜まで続いた。 	<ul style="list-style-type: none"> こぐまは、らっぱをかかえて家の前に座っている。 小鳥たちが、いい声で歌う秘訣を話しているのが聞こえてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> らっぱを空に向けて、練習を始める。 演奏会を聞きに来てくれる山のことを思って吹く。 だんだんいい音が出るようになる。何度も何度も練習を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> パーパーとうまくらっぱを吹いた。 お客さんは演奏に大満足し、大きな拍手が鳴り止まない。 たぬきとこりすが喜んで声をかける。
主人公の意識の流れ	<ul style="list-style-type: none"> うまく吹けないな。 たぬきさんやこりすさんは、上手に弾けていいなあ。 吹けなくて恥ずかしい。 みんなの迷惑になるかもしれない。 らっぱを吹くのをやめようか。 	<ul style="list-style-type: none"> 小鳥さんは、そうやって歌っているから上手なのか。 よし、同じことをやってみよう。 元気がわいてきたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなかうまくいかないな。やっぱりできないのかな。 演奏会を山のみんなが聞きに来てくれるんだ。上手に吹きたいな。 だんだんいい音になってきたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> いい音が出たぞ。やったあ。 拍手をもらってうれしいな。 音楽隊のみんなと上手に演奏することができて、よかった。 たぬきさんやこりすさんから、ほめられてうれしい。 小鳥さんの話のとおりにできたからだ。 たくさん練習してよかった。
児童の意識の変容過程	<ul style="list-style-type: none"> らっぱを吹くのは、難しいんだな。 みんなと演奏を合わせるのは、大変だ。 こぐまくんがやめたくなる気持ちが、わかるなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> 小鳥さんの話のとおりやってみればいいんじゃないかな。 こぐまくん、がんばって。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなかうまくいかないな。 音が変わってきたぞ。 演奏会に来てくれる山のことを思ったら、音がよくなってきた。 こぐまくんは、何度も何度も練習して、偉いなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> こぐまくんが上手に吹けて、すごい。 お客さんが大満足して、よかったね。 音楽隊のみんなが喜んでくれて、よかったね。 途中でやめないで、練習を続けたからだね。
基本発問	こぐまくんはどうして、らっぱを吹くのをやめようかと思ったのですか。	小鳥さんたちの話を聞いて、こぐまくんはどんなことを思ったでしょう。	こぐまくんはどんなことを思いながら、練習を続けたのでしょうか。	こぐまくんはどうして、うれしい気持ちでいっぱいになったのでしょうか。

7 本時の指導

(1) ねらい 自分がやらなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 () : 仮説に関わる事項
導入 5分	1 らっぱを見せ、主人公を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・重い。 ・簡単には吹けない。 ・いい音が出ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トランペットを吹かせ、演奏するのが難しいことを感じさせる。
展	<p>2 資料「こぐまの らっぱ」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 音楽隊で練習をするが、こぐまがらっぱをうまく吹くことができなかった場面について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>こぐまくんはどうして、らっぱを吹くのをやめようかと思ったのですか。</p> </div> <p>(2) こぐまが小鳥たちの会話を聞いた場面について、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小鳥さんたちの話を聞いて、こぐまくんはどんなことを思ったでしょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく吹けないから。 ・たぬきさんやこりすさんは上手に弾けるのに、こぐまくんは吹けないから。 ・吹けなくて恥ずかしいから。 ・みんなの迷惑になるかもしれないから。 ・小鳥さんは、そうやって歌っているから上手なのか。 ・よし、同じことをやってみよう。 ・元気がわいてきたぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を使って、紙芝居風に資料を読む。 ・らっぱが吹けないときの気持ちを問うことで、やめたいと思った心情に迫らせる。(発問) ・周りの励ましに焦ったり、上手く吹こうとすればするほど力んでうまく吹けなくなる様子をおさえる。 ・一人の活動ではなく、音楽隊の一員としての役割や責任があることをおさえる。 ・小鳥たちの会話を聞いた後の気持ちを問うことで、練習に向かう意欲を取り戻すこぐまの変化をとらえさせる。(発問)

開	<p>(3) こぐまが練習を続ける場面について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こぐまくんはどんなことを思いながら、練習を続けたのでしょうか。</p> </div> <p>(4)演奏会で上手にらっぱを吹いた場面について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こぐまくんはどうして、うれしい気持ちでいっぱいになったのでしょうか。</p> </div> <p>3 学習したことを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こぐまくんへ、お手紙を書きましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなかうまくいかないかな。やっぱりできないのかな。 ・演奏会を山みんなが聞きに来てくれるんだ。上手に吹きたいな。 ・だんだんいい音になってきたぞ。 ・いい音が出たから。 ・拍手をもらったから。 ・音楽隊のみんなと上手に演奏することができたから。 ・たぬきさんやこりすさんに、ほめられたから。 ・小鳥さんの話のとおりにできたから。 ・たくさん練習してよかったと思ったから。 ・らっぱが上手になってすごいね。 ・山みんなに素晴らしい演奏を聞かされて、よかったね。 ・たぬきさんやこりすさんにほめられて、うれしいね。 ・途中でやめなかったからだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こぐまが一人でらっぱを練習している時の思いを問うことで、苦しみながらも練習を続けうまく吹けるようになるまでの気持ちを感じ取らせる。(発問) ・小鳥の話したとおりにトランペットを吹かせて役割演技をさせ、すぐにうまく吹けるわけではないことをとらえさせる。(役割演技) ・演奏会でうまく演奏できたときの気持ちを問うことで、目標を達成できた喜びや音楽隊の一員として自分の、役割を果たすことができた充実感を十分に感じとらせる。(発問) ・「いい音が出たから」という意見しか出ないときは、「できるようになったのはなぜか」と聞き、考えを深めさせる。 ・こぐまのがんばりを振り返るために、一人一人にワークシートに記述させる。(書く)
終末 10分	<p>4 学習発表会で役割を果たしたことや、がんばったことについて振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも、劇の練習をがんばった。 ・うまくできて、練習してよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こころのノート」p21の「しっかりできたときの気持ちをきろくしておこう」の書き込みを振り返らせ、意欲化を図る。

(3) 板書計画

こぐまの らっぱ

やめようか
もういやだ
はずかしい
みんなに めいわく

スーピー

音楽隊の練習の絵

座り込むこぐまの絵

スーピー

ちからをぬく
こころをこめる

そうか
やってみようかな
げんきが わいてきた

小鳥の絵

スーピー

なんどもなんども れんしゅう
うまくいかない
みんなのため
みんなを おもって
あきらめないぞ
おきやくさんに きかせたい
みんなのため

プープー

練習するこぐまの絵

演奏会の絵

パーパー

わんぱく

おおきな はくしゅ
やったぞ
うれしい
よるこんでもらえた
あきらめなかったから

(4) ワークシート

こぐまの らっぱ

こぐまくんへ

練習するこぐまの絵

より

実践例：役割演技

1年 資料名 「こぐまの らっぱ」(1-(2) 勤勉努力)

- 1 本時のねらい
自分がやらなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする気持ちを育てる。
- 2 研究テーマに関わって
「たくましい」

自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと最後まで行う子ども



<仮説(1) 児童の思考や話し合いを深める手立て>

- 発問の工夫
 - ・こぐまが一人でらっぱを練習している時の思いを問うことで、苦しみながらも練習を続けうまく吹けるようになるまでの気持ちを感じ取らせる。
- 板書の工夫
 - ・らっぱの音色の変化をとらえさせるため、色を変えて吹き出しに書いて貼る。
 - また、こぐまの心情に合わせて、挿絵に高低をつけて貼る。

<仮説(2) 役割演技や書く活動などの表現活動の位置づけ>

- 役割演技
 - ・こぐまがうまくらっぱを吹けない時の思いをとらえさせるために、役割演技をする。
- 書く活動
 - ・こぐまのがんばりを振り返って手紙を書き、発表する。

3 児童の実態

1年生の児童は、係や当番の仕事をすすんで行っている。学習や運動でもがんばる姿が見られるが、苦手なことは避けることもある。

少人数で保育園も同じだったことから、お互いをよく理解しており衝突することがほとんどなく、注意し合うとすぐ聞き入れる。素直な児童が多いが、おとなしく反応が少ないことがある。

意識調査によると、「主として自分自身に関すること」が他よりも意識が低かった。学校生活に慣れ、日々の学習や係、当番の仕事などを通して、自分で行わなければならない事柄があることに気づき始めているこの時期に、自分で行うべきことを最後まで粘り強く行おうとする気持ちを育てたい。

段階	学習活動の概要	
導 入	1 らっぱを見せ、主人公を紹介する。 ○こぐまくんのらっぱを、みんなも吹いてみましょう。	
展	2 資料「こぐまの らっぱ」の紙芝居を視聴し、こぐまの気持ちを中心に話し合う。 (1)こぐまくんはどうして、らっぱを吹くのをやめようかと思ったのですか。 (2) 小鳥さんたちの話を聞いて、こぐまくんはどんなことを思ったでしょう。	

(3)こぐまくんはどんなことを思いながら、練習を続けたのでしょうか。



開

(4) こぐまくんはどうして、うれしい気持ちでいっぱいになったのでしょうか。

3 学習したことを振り返る。
○こぐまくんへ、お手紙を書きましょう。

終 4 学習発表会で役割を果たしたことや、がんばったことについて振り返る。
末 ○心のノートの、21ページを出してください。どんなことを書いていましたか。

T 小鳥さんの言うとおりに、こぐまになって、もう一回らっぱをふいてみよう。力を抜いて。心をこめて。
C (トランペットを吹くが、息ばかりで音は出ない。)
T どうですか。
C 小鳥さんの言うとおりにやっても無理だけど、まだまだがんばろう。
T がんばりたいんだね。
C (全員が役割演技する)
T こぐまくんはどんなことを思いながら、何度も何度も練習を続けたのでしょうか。
C うまくいかないけど、がんばりたい。
C 小鳥さんの言うとおりに、これからがんばろう。
C 音楽隊は大きな拍手がほしいから、がんばって吹こう。
T らっぱのこぐまくんのことだけじゃないね。音楽隊で拍手がほしい、だからがんばろう。音楽隊のみんなだね。どうですか？
C 音楽隊で拍手をもらえば、みんなも、(音楽隊の) 猿とかも喜ぶかもしれない。

4 分析と考察

こぐまになってトランペットを吹かせる役割演技により、児童は小鳥の話どおりに吹いてもすぐにはうまくならないことを実感し、それでも練習を続けるこぐまの気持ちを考えることができた。こぐまの演奏についてだけでなく、音楽隊の仲間への思いや音楽隊の一員としての役割について深く考えた。これには、

- ・導入で児童にトランペットを吹かせ難しさを実感させていたことにより、こぐまがらっぱを吹くのをやめようと思った気持ちに共感させていたこと
 - ・こぐまがらっぱを吹くのをやめようと思った理由について、こぐまについてだけでなく音楽隊の仲間や演奏会を聞きに来るお客さんについても考えさせていたこと
- などが、大きく関わっていると考えられる。